

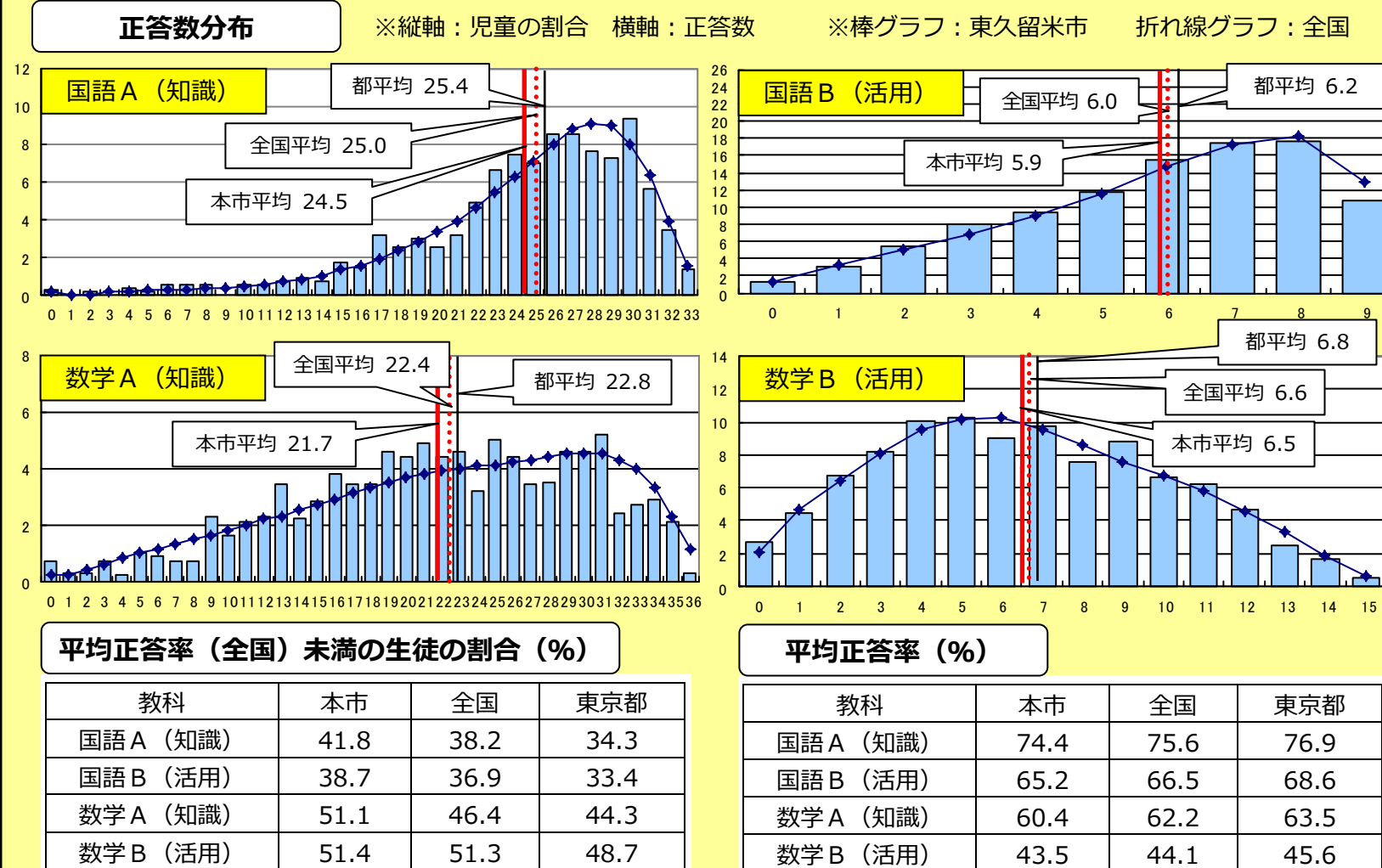
# 平成 28 年度 全国学力・学習状況調査及び市学力調査の結果について【中学校】

## 学力調査結果の公表の考え方

義務教育の目的は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことにある。本市における、この義務教育の目的の学力面での達成状況を明らかにするため、学力調査の結果に基づき、(1)基礎的な学力の定着状況と、(2)児童・生徒の一人一人の学力の伸長の度合いを市全体及び学校ごとにまとめ公表する。また、この調査結果を、今後の教育活動の一層の改善・充実に図っていくための基礎資料とする。

### 学力の定着状況について

平成28年4月19日実施 調査対象学年：第3学年 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果より



### 学力の伸びについて

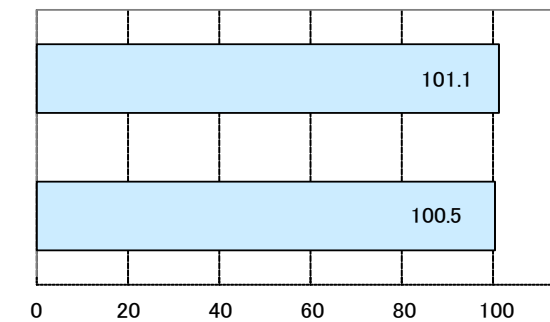
平成28年4月12日実施 平成28年度市学力調査より

平成26年度中学1年生と平成28年度中学3年生（同一生徒）の平均点を、それぞれ全国平均を100とした指数に換算し、伸びを比較

#### 【国語】

平成26年度  
中学1年生

平成28年度  
中学3年生

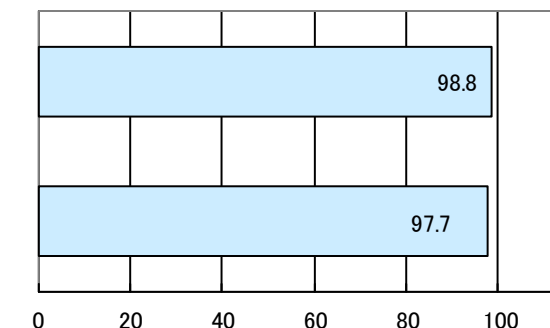


0.6ポイント  
下降

#### 【数学】

平成26年度  
中学1年生

平成28年度  
中学3年生



1.1ポイント  
下降

調査結果の概要

現状・課題

#### 【概要】

- 国語 A・B は、正答数の多い層が厚い。数学 A は、国語に比べ、緩やかな右寄りの分布となっている。数学 B は幅広く分布しており、正答数が少ない層が厚い。また、国語 A、数学 A・B の調査において、分布にばらつきが見られる。
- 平均正答率は、全ての調査で、全国平均及び都平均を下回っている。
- 平均正答率 (全国) 未滿の児童の割合は、全ての調査で全国に比べ多くなっている。国語 A は 3.6 ポイント、国語 B は 1.8 ポイント、数学 A は 4.7 ポイント、数学 B は 0.1 ポイント多くなっている。

#### 【各教科の課題】

※全国平均より下回っている課題のうち顕著なもの  
 《国語》「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む (追ひし)」「辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える」「文脈に即して漢字を正しく書く」「文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える」「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く」等に課題が見られる。  
 《数学》「具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくる」「具体的な事象における2つの数量の関係を、反比例の関係になることを理解している」「資料を整理した表から最頻値を読み取る」「反比例のグラフから式を求める」「一次関数の式から変化の割合を求める」等に課題が見られる。

#### 【概要】

- 国語において、平成26年度中学1年生では、全国平均値100を、1.1ポイント上回っていた。平成28年度中学3年生でも、0.5ポイント上回っているが、2か年で0.6ポイント下降した。
  - 数学において、平成26年度中学1年生では、全国平均値100を、1.2ポイント下回っていた。平成28年度中学3年生では、2.3ポイント下回り、2か年で1.1ポイント下降した。
- 【各教科の課題】 ※全国平均より下回っている課題のうち顕著なもの  
 《国語》  
 ●「対義語の知識」「書く目的に必要な事柄を集めること」「敬語を正しく使うこと」「動詞の活用」「漢字を書くこと」等に課題が見られる。  
 《数学》  
 ●「多項式の次数」「一次関数」「直角三角形の合同条件」等に課題が見られる。